松高新聞

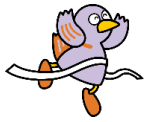
5月号
May
2023

★コロナウイルス‥感染症法上の５類へ

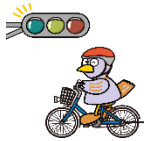
３年以上も続き、生活習慣を大きく変えてしまう等、影響が大きかった新型コロナウイルス感染症。５月８日から感染症法上の５類に分類され、季節性インフルエンザと同等の扱いになりますが、ウイルスが消滅したのではなく、まだまだ感染のリスクは残されています。本校も感染予防対策を引き続き行いながら、クラスターが発生しないように十分に注意をしていきます。

また、この３年間で我慢を強いられた学校行事などの教育活動を少しずつ元に戻していくだけでなく、この間に工夫してきたＩＣＴなどのノウハウを生かして、より満足度を高めた教育活動を進めていきたいと考えています。

★６月の行事予定



６/１　体育祭（一般公開はしません）
　/２　体育祭予備日
　/５　三者面談期間（授業短縮）
　/９　　↓
６/15　交通安全教室
　/20　学校評議員会・学校評価懇話会
　/22　進路講演会
　/27　PTA 進路見学会



★救急救命講習会

５月９日（火）、吉川松伏消防松伏分署の方々のご指導のもとで、例年行っている「救急救命講習会」を実施しました。参加者は代表の生徒や教職員、越谷西特別支援学校松伏分校の先生方を含めて、かなりの人数となり、体育館で複数のグループに分かれ、実際にＡＥＤの使用方法を学びました。

この講習会で学んだのは、実際に事故が起きたときに、個で対応するのではなく、チームで対応することの大切さです。時には大きな声を出して、応援を頼む勇気も必要となります。人の命ほど重く大切なものはありませんから。

★１年生遠足

５月２日（火）に１年生が遠足を実施しました。

１年生は、クラスの親睦を図ることを目的に、茨城県のイバライドという施設へバスで移動し、飯盒炊さんでカレーライスを食べたり、アイスクリームを手作りするなど、体験活動を通じて仲間づくりを行いました。

行き帰りのバスの中でもクラスごとに親睦を深める良い機会となり、充実した１日を過ごすことができました。

★交通安全指導

５月８日（月）からの１週間、本校教員とPTA 役員の保護者の方による交通安全指導が行われました。本校の正門前の道路は通行量も多く、信号機のない横断歩道もあるため、とくに自転車による事故が懸念されています。保護者の方々にもご協力をいただき、年３回ポイントとなる地点で生徒への声掛けを行っています。自転車乗車時のヘルメットの着用推奨と交通マナーについても引き続き指導していきます。

★授業公開＆ＰＴＡ・後援会総会

５月 20 日（土）、保護者の方々や中学生に午前中の授業を「公開」しました。多くの方々が参観され、授業や生徒の取組の様子をご覧いただきました。

また、午後はＰＴＡ・後援会の総会を行いました。昨年度の事業報告や会計報告と今年度の役員改選、事業計画、予算等について話し合いが行われました。

総会の前には、埼玉県警察本部のサイバー対策担当の方をお招きし、サイバーセキュリティ講演を開催し、サーバー犯罪の被害にあわないための専門的なお話をいただきました。ネットを利用した犯罪や違法行為・迷惑行為を防止するための貴重な機会となりました。

★２年生遠足

２年生の遠足は、秋に行われる修学旅行の事前学習を兼ねて、都内を班別行動しました。JR 東京駅に集合し、各班がチェックポイントを含めたコースを巡りました。

ゴールデンウイークの最中でもあり、混雑することも予想されていましたが、大きなトラブルもなく、無事終了することができました。

★部活動の活躍

運動部では、４月から５月にかけて、関東大会等の予選が始まりました。どの部活動も日頃の練習の成果を発揮するために、努力を続けてきました。その中で、バドミントン部とテニス部が県大会の出場権を得ることができました。その他の部活動もあと一歩で出場権を得られるところまでいきましたが・・・。次の大会に期待したいと思います。

文化部も１年生を迎え、各コンクールや１０月の文化祭等に向けて、意欲的に活動する姿が見られます。

★Matsubushi Eight Policy

昨年度から取り組んでいる Matsubushi Eight Policy は、生徒が社会に出ても自信をもって前に進んで行くために必要な力を身につけるために掲げたものです。あらゆる教育活動の中で、生徒と教職員が下記の８つの力を意識しながら取り組みつつあります。とくに今年は、「考える、聞く、行動する」の３つの力を重点化して取り組み始めています。

≪Matsubushi Eight Policy≫

１　礼節・マナー	**２　考える力**
３　聞く力	**４　行動する力**
５　思いやる力	**６　表現する力**
７　工夫する力	**８　振り返る力**

生徒の進路実現が本校の教育活動の柱でありますが、進路先の決定だけでなく、その後の長い人生を見据えた学びの機会を大切にしていきたいと考えています。